

学校概要

創立 63 周年	学校長 大橋 恵子	副校長 中山 正之	学期 2 学期制	児童・生徒数 306 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 2		主な関係校: 岡野中学校 宮田中学校		

学校教育目標

- 【自立】 健やかな心身や、善悪をわきまえ がまん強く行動する気持ちを育てます。
- 【共生】 自分を見つめ、他を思いやり、みんなのために役に立とうとする心を育てます。
- 【学び合い】 学び合いの楽しさや大切さを理解し、学び続ける力や 伝え合う力を育てます。

学校の特徴

□学校内に畑や田んぼなどの栽培活動ができる環境が整っており、地域の方々の支援を得ながらそれぞれの学年にあった栽培活動ができる。
 □地域の方の支援により、全校で剣道・茶道の学習に取り組み、基本的な礼儀作法を学んだり、高学年では地域に出て職場体験学習を行ったりしている。
 □たてわり活動が充実しており、学年間の交流が盛んで異学年同士の仲が良い。
 ■敷地に崖地が多く、その特徴を生かした学習環境を整えているが、児童の安全管理が難しいところもある。

学校経営中期取組目標

- 子ども一人一人を大切に、まちや学校の特徴を生かした、活力と魅力にあふれる学校づくりを目指します。
- ・自分の思いや考え、相手のよさを積極的に伝え合い、豊かな人間関係を築くことができる子どもを育てます。
- ・学び合う楽しさを実感できる授業づくりを推進し、進んで表現し主体的に学び続けることができる子どもを育てます。
- ・基本的な生活習慣を身に付け、心身ともに健康な子どもを育てます。
- ・保護者・地域・学校の連携をより密にして、子どもが地域や人との「つながり」を感じとり、まちを大切にすることを育みます。

小中一貫教育の取組

岡野中	ブロック	岡野中学校・平沼小学校・浅間台小学校
9年間で育てる子ども像	○他者を思いやることができる子、違いを認め合い集団となろうとする子○地域社会に貢献しようとする子○進んで挨拶や会話ができる子	
自校の具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳と「路耕」による心の教育の実践 ・道徳の授業と生活を結びつける重点研究 ・あいさつ運動 ・地域行事への児童の参加 ・高学年のしごと体験 	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎・基本の確かな定着を図るとともに、学び合いを通して、表現力やコミュニケーション能力の向上を図る。主体的に問題解決していく力を育てる。	①学力・学習状況調査の結果を分析し、各学年で効果的な取組を実践する。 ②学び合う楽しさを実感できる授業づくりを推進し、主体的に学ぶ子どもを育てる。 ③授業や学習環境のユニバーサル化を図り、子どもが落ち着いて学習に取り組めるようにする。
豊かな心	自他を大切にする気持ちを育てるとともに、多くの方に支えられている実感を感じながら感謝の気持ちを育てる。	①生活状況調査の結果を分析し学年経営計画に取り入れ子どもの育ちを計画的に支援する。 ②三耕教育の全体計画を見直し、系統性を図り段階的に子どもの育ちを支援する。 ③道徳教育を中心に学校教育目標の具現化を図る。また日常生活と関連させて指導し心の育成を目指す。
健やかな体	基本的な生活習慣の形成に関する活動に全校で取り組む。自分の取組を振り返り変容を実感しながら、健やかな体をつくっていくこととする態度を育てる。	①新体力テストの結果を分析し、授業改善や一校一実践の取り組み方を工夫して体力の向上を図る。 ②休み時間に体育館やアスレチック広場を開放し運動する機会の充実に取り組む。 ③歯みがきタイムを設定し習慣化を図る。 ④健康ファイルに取組の様子を記録し、健康に対する意識を高める。
児童指導	「浅間台スタンダード」を全教職員が共有して子どもの指導にあたる。子どもが安心して過ごせるように、子ども同士のかかわり、教師と子どものかかわりを大切にしていく。	①「浅間台スタンダード」を見直し、全職員で共通理解し、ぶれない指導を実践する。また保護者や地域との連携を図る。 ②児童理解研修を年度当初や学期ごとに実施し、教職員の指導の向上を図る。 ③少人数指導や一部教科担任制を実施し、児童理解に努める。
地域連携	地域の教育力を活かし、開かれた学校を創造する。また学校の情報を積極的に発信し、協働して地域を愛する子どもを育てる。	①地域行事や地域連携行事に、多くの子どもが参加できるよう、学校のサポート体制を工夫するとともに地域の一員であることを実感できるようにする。 ②地域の材を活用した三耕教育に取り組み、社会に開かれた教育課程を推進する。 ③学校の経営方針を共有し、連携を図るため学校だよりやホームページを充実させる。
特別支援教育	教育環境のユニバーサルデザイン化に取り組み、どの子どもも安心して学べる環境を創る。	①支援が必要な児童理解と共有化を図り、学ぶ環境を整える。 ②地域療育等のセンター的機能を活用し連携しながら、個別の支援計画を作成し有効な支援を実践する。 ③学習ルールが習慣化できるよう、学校内外の人材を計画的に配置し支援する。
いじめへの対応	児童の一人ひとりの気持ちによりそいながら、学校全体で共通理解を図りながら児童理解に努め、いじめの未然防止と対応に取り組む。	①「いじめ防止対策委員会」を月1回以上定期的に開催し情報を共有する。 ②児童理解に努め、全教職員で児童を見守り、組織で対応する。 ③外部関係機関と連携し早期発見、早期対応する。 ④年2回のアンケートを実施し、いじめを早期に認知し、未然防止に取り組む。

人材育成・組織運営	個々の資質・能力の向上を図るとともに、教職員が連携しながらよりよい教育を実践しようとする意欲的に取り組む組織づくりを目指す。	①業務の負担軽減や若手の人材育成を目指し、組織の改編を行い、チームで計画・運営する。 ②5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、学び続ける職員を育成する。 ③講師を招いた校内研修を充実させるとともに外部の研究発表や研修会への参加体制を整える。
担当	教務部	